

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	このたまがせせん 神野玉笠線																							
事業主体	徳島県	関係市町村	海陽町(旧海南町)																							
事業	【目的】 ・本路線は、海部郡海陽町神野の国道193号から分岐した町道海部川北線に接続する林道神野内妻線を起点とし、国道193号と国道55号を結ぶ町道玉笠線に至る森林基幹道である。 ・当該林道は町道及び林道を経由して国道に連絡し、当該地域に有する森林資源の合理的経営管理に資するための重要な基盤として機能させることにより、森林整備の促進による森林の持つ公益的機能の維持増進と、中山間地域の雇用増進を図ることを目的とする。 また、国道193号及び、町道における災害時や緊急時の迂回路としても重要な役割を担う。																									
	【内容】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">利用区域面積</td> <td style="width: 20%;">509ha</td> <td style="width: 20%;">[人工林面積:415ha (82%)]</td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>141戸</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>4.0m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>8,330m</td> <td>(うち平成26年度末の供用予定延長</td> <td>6,928m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>2,051,589千円</td> <td>(うち平成26年度末の実施予定事業費</td> <td>1,601,209千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>平成7年度～平成31年度</td> <td colspan="2">(25年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	509ha	[人工林面積:415ha (82%)]		受益戸数(森林所有者数)	141戸			幅員	4.0m			計画延長	8,330m	(うち平成26年度末の供用予定延長	6,928m)	総事業費	2,051,589千円	(うち平成26年度末の実施予定事業費	1,601,209千円)	事業予定期間	平成7年度～平成31年度	(25年間)
利用区域面積	509ha	[人工林面積:415ha (82%)]																								
受益戸数(森林所有者数)	141戸																									
幅員	4.0m																									
計画延長	8,330m	(うち平成26年度末の供用予定延長	6,928m)																							
総事業費	2,051,589千円	(うち平成26年度末の実施予定事業費	1,601,209千円)																							
事業予定期間	平成7年度～平成31年度	(25年間)																								
評価	【事業の進捗状況】 起点側神野工区で4,976m、終点側の玉笠工区で1,952mが既に供用されており、平成26年度末の進捗率は83%とほぼ計画どおり進捗している。 <div style="text-align: right;">[進捗率:83.2%]</div>																									
	【関連事業の整備状況】 神野工区側の供用開始した区間では、作業道が開設され急速に森林整備が実施されている。今後さらに作業道の計画もあることから、引き続き森林整備の促進が期待される。																									
	【社会経済情勢の変化】 ・本県は県土の75%を森林が占め、人工林率も高いことから、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展と併せて、土砂災害の防止や温室効果ガスの固定など、森林の有する多面的機能の維持が強く期待されている。 ・森林資源は、人工林を中心に、この40年間で約3倍にまで増加しており、特にスギ人工林は、今後5年間で樹齢50年生以上が50%を超える見込みとなるなど、成熟期を迎えている。 ・また、県内には製材業や家具製造業が古くから発達しており、「合板工場」や「MDF工場」のほか、「大型製材工場」の進出など、多様な加工体制を有している。 ・円安の進行や社会情勢の変化などによる国産材需要は増加傾向にあり、さらなる県産素材の供給強化が求められていることから、木材の効率的な生産・加工・流通の実現に向けて、川上と川下が一体となった取り組みを総合的に進めることが重要となっている。 ・県では、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目的とした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量や林業従事者の増加など成果を上げている。 ・目標を達成するうえで、木材生産にあたっては、より生産性の高い「高密路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備と普及を進めており、高密路網の中核を成す林道整備が必要不可欠となる。																									
	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し																									
項目	【事業効果の発現状況】 これまでに供用開始した区間において、平成25年度までに間伐をはじめとする森林整備を延べ339ha実施している。今後も「次世代林業プロジェクト」による、さらなる森林整備が進んでいく見込みである。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.14 (国の採択基準は1.0以上)</div>																									
	【受益者・関係機関の意向】 本路線は、海部川流域に広がる広大な森林地帯の一部を通過する計画で、急峻な地形条件や路網が未整備であることなどから、間伐など森林整備が遅れた森林があり、森林所有者からの要望が強い。 また、地域の主要な生活道である国道193号及び国道55号を結ぶ町道や林道に連絡し、地域の交通ネットワークとしての役割も期待されることから、地元関係町をはじめ森林所有者等は、早期完成を望んでいる。																									
	【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																									